

平成29年度県政モニタリング事業 県政モニターの主な意見と担当所属の対応方針

モニタリングの対象となる県政テーマと関連事業	
県政テーマ	地域の実情・ニーズに応じた生活交通体系の確保
関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域バス交通等体系整備支援事業 ・みんなが乗りたくなる公共交通推進事業
県政モニターの主な意見	
課題	<p>【課題1】 路線バスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線図と料金表がわかりにくく使いづらい。 ・バスの遅延状況をどこで入手すれば良いか分からない。 ・バス停の場所が分かりづらい。 <p>【課題2】 バスロケーションシステムについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスロケーションシステムの対象利用者が誰なのか分からない。 ・バスロケーションシステムは便利だが公共交通機関の利用者の何割が使いこなせているのか疑問。 <p>【課題3】 バス事業者について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス会社の利用者増加のための自己努力が必要 <p>【課題4】 バスに乗りたくなるような取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスを移動手段としてだけでなく、乗りたくなるアイデアが不足している。 <p>【課題5】 バス料金について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス料金が高い。 ・バスの初乗り運賃が高いため、途中で下車が必要な場合に利用をためらってしまう。
改善策	<p>【改善策1-1】 路線図、マップを分かりやすくする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図上に路線図や料金等を掲載した分かりやすいマップを作成する。 <p>【改善策1-2】 バス（バス停）の利便性を向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス停の名称に大型商業施設、公共施設等の分かりやすい名称を使用する。 <p>【改善策2】 バスロケーションシステムを使いやすくし、周知する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスロケーションシステムのPRを強化する。 ・バスロケーションシステムにバス停位置や路線を追加する。 <p>【改善策3】 バス事業者と利用者（住民）とでコミュニケーションを高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス事業者が利用者の声を聞く機会を設ける。 <p>【改善策4】 使いたい、乗りたくなるようなバス車両を整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アニメラッピングバスの実施、車両展示、整備工場見学を実施する。 <p>【改善策5】 バスの料金体系や支払い方法を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスを利用すればするほど、料金が安価になるような仕組みをつくる。

改善策に対する担当所属の対応方針

対応方針

【対応方針1】 路線図、マップを分かりやすくする。

- ・利用者が分かりやすくなるよう、路線図、時刻、地図等を掲載した総合時刻表の作成を新たに検討します。(予算要求)
- ・なお、バス事業者においては、時刻表、路線図等の周知や系統別のバス行先番号表示などの取り組みを行っています。

【対応方針2】 バス（バス停）の利便性を向上させる。

- ・バス停は、利用者の利便性、地元からの要望などに基づいて、バス会社などが整備を行っています。また、バス停の表示についても、大型商業施設、公共施設等の名称を用いるなど、利用者に分かりやすい表示に努めていますが、引き続き、取り組みを進めます。

【対応方針3】 バスロケーションシステムを使いやすくし、周知する。

- ・バスロケーションシステムの利便性向上に向けた改修（運行ルートの表示など）は、必要に応じてシステムを開発した鳥取大学と協議しながら検討するとともに、システムのPRを強化します。(予算要求)
- ・なお、バスロケーションシステム（位置・遅延情報検索）やバスネット（経路検索）は、携帯電話で利用できるほか、簡易型専用端末をバスターミナル、主要駅、病院、大型商店など県内26箇所に設置しています。

【対応方針4】 バス事業者と利用者（住民）とでコミュニケーションを高める。

- ・県政モニターからの意見をバス事業者にお伝えするとともに、今後も利用者等の声が事業に反映されるようバスターミナル等への意見箱の設置の検討なども進めます。
- ・なお、バス事業者では、自治体、交通事業者、利用者代表などで構成される市町村交通会議、路線変更など自治体を通じた地元からの要望の聞き取り、乗務員による利用者の意見の聞き取りなどを行い事業に反映させるよう取り組んでいます。

【対応方針5】 使いたい、乗りたくなるようなバス車両を整備する。

- ・バスを利用したくなるような取り組みとして公共交通乗り方教室の開催や貨客混載の導入など、また鉄道、タクシーを含む公共交通の利用促進や地域振興に係る交通事業者や市町村等が行う取り組みへの支援強化を検討します。(予算要求)
- ・なお、バス事業者では、バスに興味をもっていただくために「ひなビタ♪」、「名探偵コナン」、「ゲゲゲの鬼太郎」などのアニメラッピングバスの実施や小学生の会社見学なども行っています。

【対応方針6】 バスの料金体系や支払い方法を工夫する。

- ・交通事業者では、高齢者を対象とした乗り放題定期券、観光施設の入館料割引などの特典がついた3日間乗り放題券、外国人観光客を対象に特定エリア内のJRとバスが乗り放題となる名探偵コナン鳥取レールバスなど、事業者間で料金が安価となるような取り組みを行っており、引き続き、利用しやすいチケットの検討や既存の割引商品などのPRを実施します。